




いつでも
誰とでも
やらせてくれる
女子が
先生の巨尻に
ハマる話





俺の勤めるこのC学校には、ここ最近男子達の間でひっそりと囁かれている噂がある。

——いつでも誰とでもやらせてくれる女子がいる——。
……と。

その噂が真実ならば生徒指導の教師として見過ごすわけにはいかない。
真相を確かめるべく、俺は放課後の校舎内を見回っていた。



「ユ、ユママさん……。その、誰とでもやらせてくれるって噂ってホント……?」

あの……。もし良かったら(ギンツ)ぼっ、僕とも……。 (ギンギンツ)

「K太くん。おマン」貸して欲しーの? いいよー」

(!?! そんなあ(わらわ))

「あつ、でも今ツシヤゲの鬼畜イベ脳死周回中だから

ちよつと手が離せないの。このまま勝手にパンパンしてで。

好きに使っていいから (ペロン♡)」

(しかもノーパン!!)

「そ、それじゃ……。遠慮なく……」

「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ……」

ぬちゅっ♡ ぬちゅっ♡ ぬちゅっ♡

やっそく見つけてしまったあー！

あれは3年A組の○崎ユマ……！ あいつが噂の女子だったのか……。何というビッチ。あれは予想以上にやりまくってるな。

男子の方は同じクラスのK太か。

まさかあのガリ勉で真面目なK太まで噂に釣られてやりに来るとは……。神聖な学び舎で不純異性交遊とはけしからんっ！
ここは教師としてガツンと叱りつけてやらねば！

「はあっはあっ。ユマさんのおマシ」気持ちいいっ。

膾内ヌルヌルっ♡ 女の子特有の甘い匂いで精子込み上げてくるっ♡

金玉びゅくびゅくで爆発しちゃっよ♡ はあっはあっ♡

……。インテリなK太も今はOKくらいになってやがるな。

アイツは家が厳しくて羽目を外せる機会も少ないだろう。

仕方がない、今回はかりは見なかったことにしてやるっ(シメシメ)。

「フリーッ！フリーッ！おまん♡おまん♡おまん♡おまん♡」
「あつ、揺れてタップズしちやった…！」

獣の様に興奮しきったK太とは対照的に、
ユマはスマホゲームに夢中だ。

「は…は…は…は…、孕めっ！孕めっ！孕めっ！！」

「やったあ！金箱ドロップ♪」

「あっあっ」

「ぱちゅッー！ぱちゅッー！ぱちゅッー！

「あ、ゴメンK太くん、何か言った？」

「あつ、何でもない…です」

「ぱちゅッー！ぱちゅッー！ぱちゅッー！

レア武器
発見！

ラッキーw





「フッ、フホッ♡ ホオッ♡」

ビュッ♡ ビューッ♡ ビュルッ♡ ビュブブッ♡

K太は挿入して5分と経たないうちに射精した。

それでも尚、精液を撒き散らしながら腰を打ち続けている。

「K太くん、興奮しすぎ♡ ユマのおまんこそんなに気持ちいいの？」

男子達みーんな、ユマとやるとそうなっちゃうんだよねえ♡

K太くんみたいな真面目な男子からウェイウェイWな不良まで

みーんなユマのおまんこの前ではお馬鹿になっちゃうの♡

ホント男の子って可愛いよね♡」

おいおい、うちの男子生徒全員をまんこ堕ちさせる計画か？

◎崎ユマ…、侮れん◎キだ。これ以上風紀を乱させるわけには

いかない。暫く監視が必要だな。



何やら湿った音が聞こえてくると思ったら…ユマ！
またお前か！

今度は校舎裏に隠れてチンポじゃぶつてやがる。

相手はサッカー部のイケメンエース、Y也じゃないか。

……あいつ彼女いなかったか？

まったく！尻を振りながらぐちゅぐちゅと

いやらしい音を立てて…。何て下品な女なんだ！

Y也がエロにのめり込んで部活動が疎かになったら

どうするんだ！

うちは強豪校なんだぞ！！

じゅるっ♡ じゅるっ♡

「んっ♡ んっ♡ んっ♡」

「おほっ♡ ヤべっ♡

ユマのフェラテクすっげえ…。

パツクリ啜えて根元から持ってかれる♡」

「んっ♡ んっ♡」

「うおお♡ すごい吸い付き！」

チンポ大好きかつw

部活中のムレムレチンポのフェラチオなんて

彼女だって嫌がるぞ。お前本当クソビッチなw」

「んっ♡ んっ♡ ちんぽひゅきで何が悪いのお？」

んくっ♡ んっ♡ じゅるっ じゅるるるっ♡

ユマもY也くんもきもひ良くなっへ んくっ♡

ういんーういんじゃん」

「悪いとは言ってるねえよ。こうやって毎日お前に

抜いてもらってるんだからな！ おっ♡ ほおっ♡」

はあ……、嘆かわしい。

部の要が練習途中で抜け出してチンポ休憩とは。

ここは俺がガツンと二発……行くべきところだが

厳しい練習で溜まった疲れをああやっつて

発散しているのかもしれないな。

それならユマのフェラはサッカー部……ひいては

この学校に貢献していることになる。

うん、大目に見てやるか(シッコシッコ)。





「あはあ~~~~っ♡♡♡ イ~~~~っ♡♡♡」

びゅっ♡♡♡ びゅっ♡♡♡ びゅっ♡♡♡

「ごぽおっ♡♡♡♡♡」

「まだ射精るっっ♡♡♡ 射精るっ♡♡♡」

「ユマの口内で暴れ散らかしてっ♡♡♡ 最後の一滴まで

絞り出すっ♡♡♡」

「もぐっ♡♡♡ ぶばあっ♡♡♡♡♡」

びゅーっ♡♡♡ びゅっ♡♡♡ びゅっ♡♡♡

「はあ~~~~。今日もザーメン便器に射精しきって

スッキリチンポで練習戻れる！ また頑張れるっ♡♡」

「かはッ♡♡♡ かはッ♡♡♡ かはッ♡♡♡」

うんうん、やっぱり若い男はああでないと。

ユマも嬉しそうに口かっぴらいて

イケメン体育会系男子の濃厚オス汁を受け止めている。

ベトベト精液まみれになったユマの顔を満足そうに

眺めた後、Y也はグラウンドへ戻って行った。

（すーはーすーはー）

ああっ、いい匂いっ。女子のおっぱい甘い匂いがするっ。すげえっ!!

ユマちゃんの膣内ぐちゅぐちゅでチンチンもいっぱいっばいっばい

気持ちいいっ！ エッチすげえっ！♡♡

こっそり覗き見しているとT男の興奮がこっちまで伝わってくる様だ。

あの年齢ならもう堪らんだろっな。

それにしても、いじめられっ子のT男にも分け隔てなく

おまんこを差し出してやるユマには感心したぞ。

「ユマちゃんっ！ はあっ、はあっ。ユマちゃんっ!!♡♡♡♡

クスッ。T男くん必死で腰振ってる。

ふん、普段は大人しい男子もエッチではこうなっちゃうんだあ♡



「あうっ、あうっ……っ！」
ガクガク。

みっちりと股間を合わせたままT男は射精した。

荒い息を上げてガクガク腰を震わすT男とは反対に

ユマは余裕の表情を浮かべている。

思春期男子のこっ तरी汁を物ともなく受け止めるとは、

なかなかマンコの据わった女だ。

あどけない顔をしているがあのだらしのない笑みに

スケベさが滲み出ている。

いっぺん俺のチンコであの生意気な笑顔を

崩してやりたい……。なんて思ってみたり……。



「マジでやるのかよ!!」

「おもしろえっ!!」

何だ? 廊下に人集りができている。

「一体何を騒いで…」

「男!?!」

いじめか!?

いや違う…!!

「ユマちゃんっ! 本当にユマちゃんの方が

先にいったら僕と付き合ってくれるっ!」

「いいよー。でもT男くん、もうカウパー

だらだらじゃない。私に勝てるかなあ?」

「ユっ、ユマちゃんこそおまん」かららっほい

エッチなお汁流れてるよ…っ!」

「うんっ♡ すっぴんおまん」気持ちいい♡

「そんなこと無邪気に言わないでよ…(汗)



なるほど。

ユマと付き合いたくて告白したら
ガマン比べの勝負を持ちかけられたわけか。
T男の奴、やるなあ。

この前のセックスでアイツの虜になっちゃったのか？
いつでも誰とでもやらせてくれるんだから
付き合う必要もないと思うが…、きつとユマのこと
独り占めしたくなっちゃったんだな。
でもあのクツビッチ女子、付き合えたとしても
お前だけのものにはならないと思うぞ…。

「T男！ 頑張れ！」

「そっこだ！ ユマにお前の漢気を見せてやれ！」
あのいじめられっ子だったT男がクラスの男子達に
あんなにも応援されている。
こんな感動的な展開に水をさすわけには
いかない。
そっと思守っておいてやるっ(シ)「シ」。



「あんっ♡ あんっ♡」

ヴヴヴヴヴヴ...

「頑張れー男！ ユマがもうすぐイキそうだぞ！」

ヴヴヴヴヴヴ...

「んっ♡ あっ♡ ああんっ♡」

いいや違う。俺にはわかる。

ユマにはまだ余裕がある。

芯から感じている時には出ない声だ。

「ああっ♡ んっ♡ あんっ♡ あんっ♡」

なんちゅう甘い声で鳴くんだ、ユマ。

あれは男に射精を促すための嬌声。

意識的なのか、メスの本能か...

あの年齢にして男の金玉に響く声の出し方を

会得しているとは、未恐ろしいメス○キだ。



「T男の負け!!!」

ユマは勝ち誇った笑みを浮かべ
Vサインを作った。

T男のチンポからは噴水の様にザーメンが吹き出し、
ガクガクと痙攣しながら情けない絶頂姿を晒している。

「あーあ、T男の奴ガチイきしてやんの。

でもまあ、よく頑張ったよ」

「惜しかったなあ」

「ユマのいくとこ見たかったぜ」

「いっつも俺らの方が先にいっっちゃうんだよな」

男子達は少し残念そうにしながらもT男を嘲る者は
一人もいなかった。





やっぱり今日もおっ始めてるな…。
今度はチャライ系のS次とD助か。
アイツら、ここ最近学校をサボらなくなったと
思ってたら…。なるほど、ユマ目当てだったのか。
教師でも手を焼いていたアイツらのサボり癖を
矯正させるとはな。

ユマにはこの調子で頑張ってもらおうか(シロシロ)。

「んっ♡ふっ♡」

「はあ、はあ、…っくっ」

S次のチンポはガチガチに勃起しているが

ユマはなかなか啜えようとはせず、

上下の唇を捲り竿の裏側を丁寧に擦り付ける。

舌とは違う粘膜の柔らかな感触に焦らされるのか、

S次のチンポはビクビクと跳ねた。

先端からカウパーが漏れ出ている。

「S次〜w なに先走り汁垂らしてんだよw」

「るっせ！ お前こそチンタラやってねーで

早くユマイかせるよー！」



たっぷりと時間をかけてチンポを愛撫した後、
ユマはようやくパクりと啜え込んだ。

そのまま一気に根元から鬼頭までのストロークを
激しく繰り返す。

「うおっ、急に激しく…っ♡ おっ♡ おあっ♡」

「んっ♡ んぶっ♡ ぶぶっ♡ んうっ♡」

グプッ、ゴプッ♡ ゴププッ♡

ゴチュッ、グチュッ♡

何ていやらしい音を立てた濃厚フェラ…!!

見てることちが恥ずかしくなるくらいだぜ!

ちゅく♡ ちゅく♡ ちゅく♡ ちゅく♡

「んっ♡ んうっ♡ んぶっ♡ んうっ♡」

さすがのユマもD助にクンニされて声に艶が
出てきたな。女はクンニ大好きだからなあ。

案外ユマみたいなビッチもマン舐めには弱いもんだ。

ほーら、脚をバタつかせて感じてやがる。

さあ、D助は舌でユマをイかせられるのか?



「おふっ♡」

ビュルッ♡ ビュルルッ♡

「エへへ、S次くんすごーい♡」

ユマのお口の中でピュッピュたくさん射精てるね♡
すごい量溜まってたんだね♡

ほらまだ漏れちゃってる♡」

ジュボツ♡ ジュボツ♡

「待っ…!! イってるッ、イってるから!!」

「クスクス、ヤンチャなS次くんも

ユマのフェラにかかればすぐにおチンポ汁

お漏らししちゃう男の子になっちゃうんだね♡」

「っせおまつ!! お漏らしじゃねーよw」

「ギャハハw、S次イ、そんなにだらだら

ザーメン垂れ流して格好つけんなー?w」

「おめーこそ何チンタラやってんだよ!!」

「ユマのごとイかせるんじゃないかったのかよ!!」

「うーん、やっぱりユマの方が二枚上手みたいだ…。」

——一週間後。

まさか噂は本当だったとは。

連日ユマの痴態を見続けて今日も俺は股間を滾らせながら放課後の校舎を探し回っていた。

「せーんせ♡」

「!! ◎崎……ユマ……っ」

突如目の前にお目当てのツレは現れた。

「最近私がエッチしてるトコ、ユマごっそり覗いてたたでしよあ?」
「気づいてたんだから♪」

「な……っ!」

「クスクス、先生もユマとエッチなこと、したいんでしよあ?」

「いいよお♡ ユマあ、先生ともシてあげる♡」

「はあ、お前なあ……」



「なーにがッシてあげる♡だ。」

○キの分際で教師の俺を誘惑してるつもりか?」

俺はユマを人気の無い場所へ連れ込みすぐさま背後から上半身をまさぐった。

「んっ♡んふっ♡」

ブラをズラしセーラーの上から乳首をカリカリと引っ搔く。

薄い布を一枚挟むことで痛みを感じさせず長時間弄り続けられる。

「まったく、○キの癖に二丁前に色気づきやがって。」

お前は一体何しに学校来てんだ?

毎日毎日男子生徒をたぶらかした挙句、教師の俺まで食つつもりか?

馬鹿にしやがって、糞ヒッチ反省しろ!」

「んっ♡んふっ♡」



説教しながらも俺の股間は既にガチガチにおっ勃っていた。

俺はソレをユマの尻に押しつけ、まだまだ執拗に乳首を掻き続ける。

カリカリカリカリカリカリカリカリカリカリ...

「...っ♡ あっ♡ はあっ♡」

「ちよ、ちよつと...、せんせっ♡ さっきからずーっと乳首ばかり...♡

んっ♡ はあっ♡ 脱がしもしないし、直に触ってもごない...♡

いつもの男子達なら...、んっ♡ すぐおまんこ...っ♡

シたがるのになっ♡♡

さすがのユマもしつこい乳首責めに頬は紅潮し、息も上がっている。

足元が震え、へっぴり腰の様な体勢で揺れる尻に遠慮なく股間を

擦り付けた。

（先生、すっごく勃起してるじゃん♡

も、も...。先生だってユマとやりたい癖に、そんなに焦らしちゃって♡



ユマの反応を十分に楽しんだ後、俺は前に回り込んだ。
セーラーの前を開け、ユマのおっぱいにしゃぶりつく。

「あんっ♡」

乳輪からクルクルと硬くなつた先端に向かって舌でなぞつてやると
ユマは小さく体を跳ねさせた。

「はっ♡ はあっ♡ せんせえ♡ 舌使いエッチすぎっ♡」

「乳首なんて触れられてもくすぐったいだけだったのに

何で? こんな…♡ すごいエッチじゃん♡

うそ、ヤバ♡ 私乳首でイっちゃう…?♡(?!)

ちゅぽっ♡ちゅぽっ♡ちゅーっ♡

何度も強く吸い付いては離し、吸い付いては離し、とつらつらやっ…

「あ♡♡♡」

ユマは全身に鳥肌を立てて甘イきました。



「んっ、んぐっ♡ ぐぽっ♡ ぐぽぽお♡
ぐちゅぐちゅぐぶんぐぶんぐぶっ♡♡♡♡♡」

…さすがヤリマンJ○の本気フェラ。

狭い喉奥まで使って馬鹿みたいに吸い付いてきやがる。
激しいストロークにすぐイってしまいそうになるが…
我慢だ。こんなに早く発射して舐められては困る。

(別の意味で舐められてはいるが…)

くちゅ♡ ぐちゅ♡ ぐちゅ♡ ぐちゅ♡

「んっ♡ んっ♡ んっ♡」

「ユマ。お前、何マン」弄ってんだw

そんなにこのチンポが欲しいのか？」

「んっ♡♡♡」

はあ…、オナフェラなんぞおっ始めやがって

下品な奴だ。ここまで恥じらいがないとは。

「チンポ♡ ぐらひゃい♡」

せんせのっ♡ ガチエロ黒チンポでっ♡♡

下のお口も突いてほひい…っ♡♡♡♡」





「オラァ!! お待ちかねのチンポだ!!」

「チンポきたあ♡♡♡」

俺は乱暴にユマを押し倒し、ガッチガチに勃起したチンポを淫乱クツメス穴に捻じ込んだ。

「オラッ!」 ◎学生の癖にマンコ使って男囲わせてん

じゃねーぞ! チヤホヤされていい気分か!

ズコッ♡ ズコッ♡ ズコッ♡ ズコオッ♡

「ああ♡♡♡ごめんなひやいつ♡♡♡」

「性欲猿の思春期男子は楽勝でもなあ!

大人はそんな簡単には落とせねえぞ!

こんなガ○マンコで教師の俺をたらしこもうんざ

100年早いわ!

ああ〜ガ○マンコきつつきついで気持ちええ〜♡

パチユっ♡♡♡パチユっ♡♡♡



「あ~~~~すごお♡ 大人チンポすごお♡♡♡

膣内ギッチギチに差し込んで攻めてきてる♡

さっきから膣内イキしっぱなしでヤバっ♡

せんせえ、◎学生相手でも容赦ないなあ♡

ユマだって、ユマだって♡

にっ、妊娠しちゃうかもなんだよお？♡♡♡

おおお奥…っ♡ 奥っ♡ そっっ♡ 子宮のお口♡

子宮のお口にグリグリ押し当ててきてるっ♡♡♡

せんせ…っ、こんな◎◎相手に本気で種付け交尾

してるの♡♡♡(っっ極悪っ♡♡♡)

「きゅーきゅーきゅーきゅーきゅー♡ 物欲しそっくに

締め付けやがって、このクツビッチ!

どうだ、男子達のチンポより良いか!

この贅沢もんが!

◎キは◎キラしく◎キのチンポで満足してる!」

「うああああ♡♡♡」

「おっー♡♡ せり上がってるっー♡♡♡」



びゆるー♡ びゅっびゅっ♡

ばちゅッばちゅッばちゅッ♡♡♡

「あッッッ♡」

「お♡ 射精る射精るw

同級生男子じゃ飽き足らずいつちよまえに教師を
たぶらかそうとしたクツ○キマンコには容赦なく
膣内射精しセックスで教育してやらんなあ

「づっ♡ んあぁっ♡ イっっっ♡」

ばちゅッばちゅッばちゅッ♡♡♡

あ〜♡ もつめちやくちやに気持ちええ〜♡

○学生マンコに種付けとあらば俺のキンタマも

フル稼働で子種製造を急ぎよるわw

びゅくびゅくびゅくっ♡ びゅっびゅっ♡

「あっ♡ ぐっ♡ おあーっ♡」

ふひゅっ♡ ふひゅっ♡ ふひゅっ♡

—————

こうして俺とユマの

『ラブラブ♡生ハメ♡セックスライフ♡』

は始まったのであった。



「あん♡♡♡先生…、恥ずかしい!!!」

「何ぬかしてやがる。あれだけ毎日毎日色んな男とやりまくってたビッチが」

「ひどおい、先生♡♡♡」

「ユマはただ…、男子達が求めてくるから断れなくて♡♡♡」

何と白々しい。「私、エッチ大好きです♡♡♡」

ってな顔していっつもお前の方から誘ってんだろお。

ほらみるこのどスケベマシッが!

ちよつと舌先尖らせて弾いてやっただけで

こんなにピンピンクリトリスを硬くさせてやがる。

「あっ♡♡♡ あんっ♡♡♡ ああんっ♡♡♡」

じわりじわりと滲み出るマン汁をクリに絡め、

更に激しく舐め回す。

ユマはビクビクと反応して熱い息を漏らしている。



ぢゅ……っ♡ ぢゅるっ♡ じゅぶぶっ♡

「ひゃあ♡ ま、待って♡ 先生っ!!」

そんなに吸いついちゃだめえ♡

「いつちゃういつちゃういつちゃうよおっ!!♡」

ぢゅるっ♡ ぢゅるるっ♡ ぢゅ……っ♡

「んっはあ♡ 先生…っ、ああんっ♡」

悦んどの悦んどの。女はクンニが好きだからなあ。

こいつも例に漏れず膣穴ヒクつかせてよがっている。

ぷっくりと肥大したクリの根元を舌で突き上げながら

「リッリッリッリと揺らしてやる。」

「うっっ♡ うあ…っ♡♡♡」

こう毎日相手をしていると弱い部分もわかってくるもんだ。

「せんせっ♡ さつきから♡ 敏感なところ…ばっか♡」

そんな攻め方っ♡ ズルい♡ か弱い女の子相手に

容赦ないんだから♡

抜かしおる…。



じゅるっ♡じゅるっ♡

ぶじゅるんんんんんんんんんんんんんんんん♡♡♡♡♡

「あ~~~~っく、クリでイっちやうクリでイっちやう♡

大人の男性にマツクリ刺激されて

糞雑魚晒しちゃう♡♡♡♡♡

舌二本でえっ♡こんなにっ♡簡単にっ♡

イカされちゃう♡

チンポ欲しくてメス穴ヒクっかせてる癖に

クリがキュンキュン気持ち良くて

どうしようもなく昂っちゃうっ♡♡♡♡♡

「んっお♡♡♡♡♡」

ビクンビクンッ♡

獣の様なブサイクな声でユマがいった。

普段は小生意気な○キだが可愛いところも

見せてくれるじゃないか。





「み、見えねーっ」

「はあ、はあ。おいつ押すなっ」
「ざわざわ...」

「ほおら、見る。男子共が覗きに來ちまったじゃねえか」

「あんっ♡ 皆に見られてるっ♡」

「何臆内キュツキュ締め付けてんだ！

見られて嬉しいか、この変態！」

「あっ♡ んうっ♡」

ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡

「はあっ♡ あっっ♡ 頭がクラクラして♡ もっっ♡

チンポのことしか考えられないっ♡」

ゴチュツ♡ ゴチュツ♡

「あっ♡ あっ♡ 子宮がチンポに押しつけられる♡

子宮潰れちゃう♡ あっっっっっ♡

「オラっ！ 茹で上がる前にさっさとイけッ！」

どちゅっ♡ どちゅっ♡ どちゅっ♡

「うああっ♡ あっ♡ あーっ♡♡♡♡







フーッ♡ フーッ♡ フーッ♡ フーッ♡ フーッ♡
ぐちゅぐちゅ♡ ちゅぽっ♡ しっしっしっお♡♡♡♡

（お口の中ぐっちゅぐちゅに絡み合うキスん気持ちいい♡
ラブラブベロチュー対面エッチ♡ 好き♡

ん♡ タバコのおい♡ 大人の舌使い♡ 好っき♡♡♡

今日も俺はユマからのエッチなおねだりに応え、
人気のない教室で放課後背徳交尾に勤しんでいる。

フーッ♡ フーッ♡ フーッ♡ ぐちゅぐちゅぐちゅ♡

上も下も必死に吸い付きやがって。ヨダレとマン汁垂れ流しながら
若い繁殖欲だだ漏れにして種付け懇願してきやがる。

チンポ乞いがだんだんエスカレートしてるじゃないか。
まったく困ったもんだ。

「お前、最近俺んとこばっか来て…、もう男子達とはやってないのか？」
「んえ？ どうしてそんなこと聞くのお？」

「ユマ、先生のチンポの虜になっちゃったんだもん
毎日先生としかやらないよー」

ちゅぽっ♡♡ ちゅぽっ♡♡

「そりゃアイシムには悪いことしたなあ」

「んっ♡♡ 先生、そんなこと言つて。ユマが他の男とやってもいいの？」

「ああいいぞ、むしろ見たい」

「何それえーw」

ちゅぽっ♡♡ ちゅぽっ♡♡ ちゅぽっ♡♡ ちゅぽっ♡♡

「俺の女にでもなったつもりか？ ◎キの癖に調子乗ってんじゃねー」

「いいか？ お前はこの学校の性処理係だ。いつでも誰とでも

やらせてくれる女子、それがお前だ。これからも一生懸命、

性欲を持て余した男子達のためにご奉仕活動に励めよ」

「んああーい♡♡」

ただやるのにも飽きてきたところだ。

今度は俺の前で男子達にマワさせてやるっ…。

「んっ♡♡♡ ちゅっちゅっちゅっ♡♡♡」

ぶちゅっ♡♡♡ ぶちゅっ♡♡♡

「あっ♡♡♡ イく♡♡♡ イっちやう♡♡♡ せんせーも一緒にイっご？

ひだ肉絡みつかせていっぱい精子絞っちやうからねっ♡♡♡」

はあ~~~~まったく…。

最近の色気付きやがって、二丁前に純愛カップルの様な
いちやラブ交尾を求めてくるもんだから

ごっらでいっぺん男のための肉欲吐き出し袋としての自覚を
思い出させてやらねえと…。

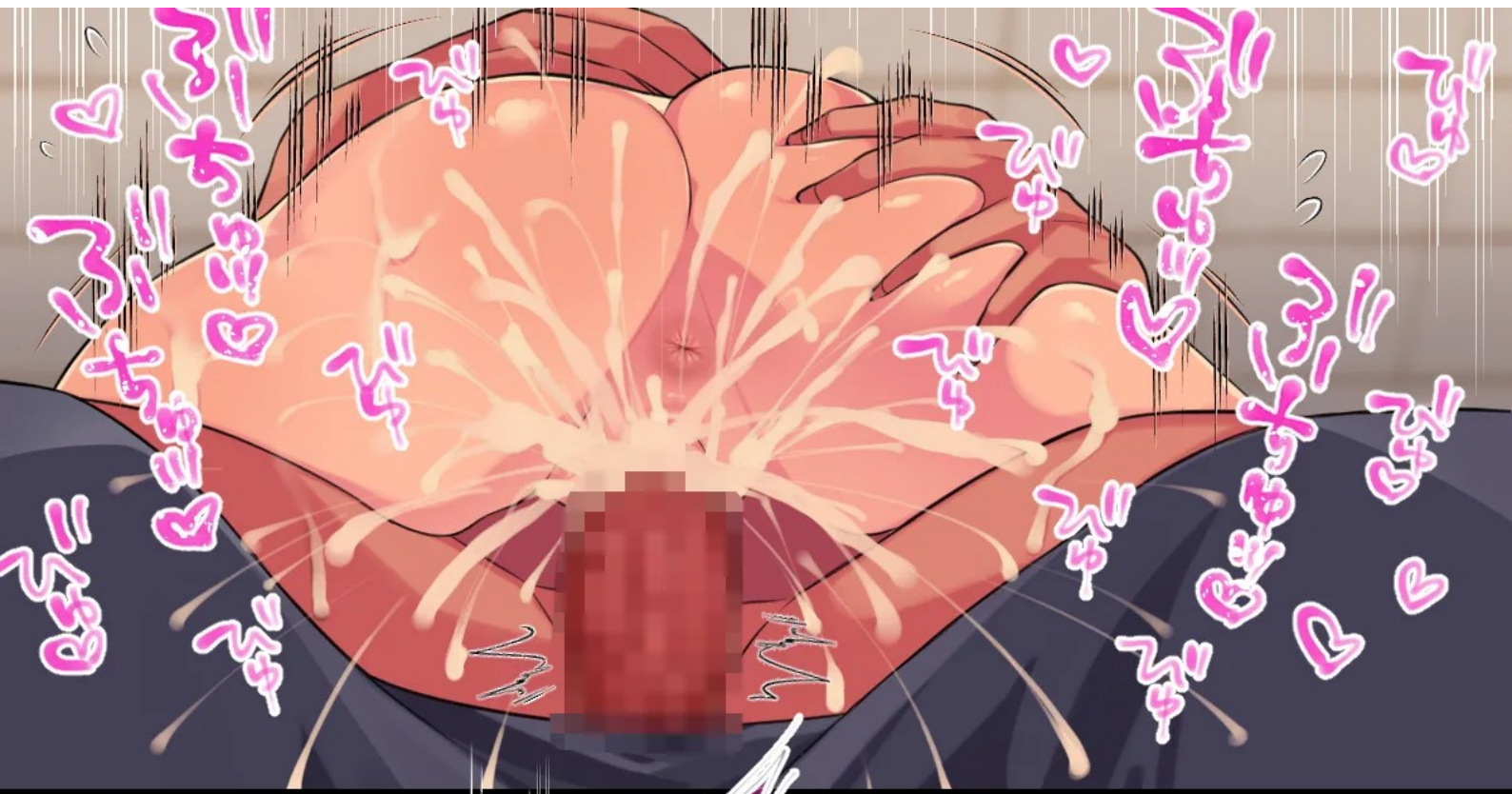
は♡♡♡

は♡♡♡

は♡♡♡

は♡♡♡

は♡♡♡



「んっ♡ んぶっ♡ ぶふうっ♡」
(オラッ!! キスしたままイけ!!)

子宮口押し開けて奥までたっぷり注いでやる!!!

ぶびっ!! びゅっ!! びゅ~~~~っ!!!

「んぶぶふうふう~~~~っっっ♡♡♡♡」

上も下もみっちり密着させたまま俺達は同時に達した。
くっ、絞りとりれるっ。

こんなに毎日やりまくってもユマの膣は緩むこともなく
それどころか日に日に俺のチンポにフィットしていった。

ユマのマンコはもうすっかり俺のカタチになってしまった様だ。



「オラッ！ ユマー！ しっかりコキ穴締める！
お前のそのチンポ狂いのオス媚びマンコ使って
しっかりオス猿共のザーメン絞り上げてやれ！」
「んっ♡ はあい、せんせっ♡ んむっ、ぐむっ♡」
今日はユマとはやらず、ユマが男子達にマワされ
ているところを教卓に腰掛け眺めている。

「ユマあ！ 俺達んところに戻って来てくれたのか！
「ユマが先生とばっかする様になってから、俺らずっと
溜まりっぱなしだったんだぜ！」

「ああ、もう俺達とはしてくれないかと思ってたぞ！」

「みんなあ、ごめんね♡ ユマ調子に乗って先生専用

マンコになったつもりでいたけど…♡

ユマは皆の肉便器だっと思って出しちゃった♡

ユマ、これからもみんなの為にいっぱいいいーっばい♡

性欲処理しちゃうから♡ よろしくねっ♡



「は、早く俺にもやらせろよ！」

「待てよ、次は俺だぞ！」トシ

久しぶりにユマと出来ると知り集まった男子達が
ユマのメス穴を奪い合う。

うーん、さながら卵子に群がる精子の様だ。

それにしても、集まったなあ…。

クラスの男子、全員揃ったんじゃないか？

ぐちよつぐちよつ

「んぐっ！ ぐぶぐぶっ♡ フーッフーッ♡

さすがのユマもこの数を相手にするのは骨が
折れる様だ。

（あ♡ あ♡ あ♡ こんなにいっぱい男子達から

ティッシュみたいに乱暴にに扱われて精液ぶち撒け

られてるとこ先生に見られて、ユマすっごく興奮して

る♡ 最推しチンポがすぐそこにあるのに他のチンポ

上の口からも下の口からもぬっぽりぐっぽり啜えて

稚拙な交尾…、馬鹿みたい♡

せんせー♡ 若いオス達から欲望の吐け口にされてる

ユマのこぶもっつと見てー♡♡♡



「おっほおおおー♡♡♡」

「射精るッ!!♡ 射精るうッ!!♡」

ぶびゅーッ!!♡

ぶびゅーッ!!♡

「んじぽっ♡ じぽっ♡」

「ガハハ！ ユマあ、どうした？ 茹でダコみたいにな

真っ赤になってるぞ！」

「んっぶッッ!!♡」

「吐き出さずしっっかり受け止めてやれよ？」

「ザーメン大好き淫乱糞ビッチのお前ならできるだろ!!」

「んぐぽおッ!!♡」

俺の煽りに無理矢理応えるかの様に、鼻の穴から精液を噴きこぼしながらもしっっかりとチンポを啜え込むユマ。

膣内の方ももう入りきらないのか、ピストンする度に精液が弾け飛ぶ。

うんうん、種汁袋としての役割をしっっかり全うしているな。偉いぞ、ユマ。



今日は修学旅行。案の定ユマは男風呂に忍び込み、男子達とポカポカヌルヌルぐっちよりプレイ♡ を楽しんでいた。

「うら、ユマ！ こんな日にまでおチンポ遊びか！ 後がつかえるから

長湯は禁止だと言われているだろ！ 規則を破る悪い生徒は

生徒指導の俺がしっかりと指導してやらないとな！」

ぐちよっ、ぐちよっ♡

「あんっ♡ あんっ♡ ごめんなさあい♡ ユマは悪いコだからもつと

お仕置きして下さい♡」

「す、すげえ…、先生のデカチン、根元までずっぽり飲み込んでやがる…」

「ユマはあ♡ 皆の性欲処理係だから♡ お泊りでオナニー満足に

できなくて、男の子達ムラムラしてたら抜いてあげないとって思っ♡」

「ああ、そうだったな！ こんな日にまでおマンコ貸し出し営業中とは

感心したぞ！」

ぐちゅっぐちゅっぐちゅっぐちゅっ♡

「あんあんあんっ♡♡♡」



「ユ、ユマツ！ 俺のもしゃぶつてくれー！」

「次、俺っ！」

「順番順番♪ ユマのごと取り合いしないで♡」

「ユマが皆平等に気持ちよくしてあげる♡」

ギンギンにイキリ勃つチンポに囲まれたユマは満足そうな笑みを浮かべ、生意気なセリフを吐く。

「んっ♡ むっ♡ こきゅ♡ こきゅ♡ こきゅ♡」

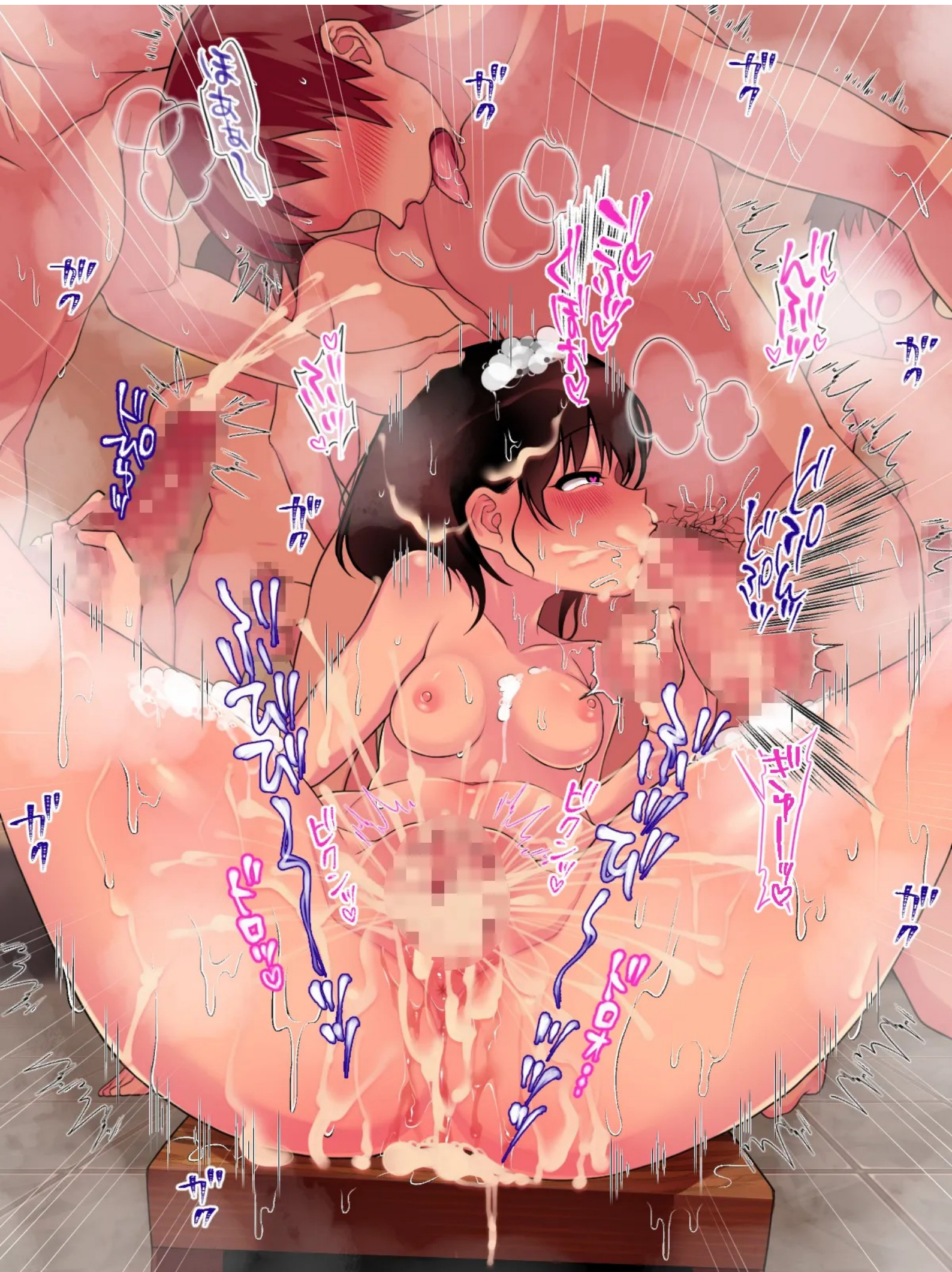
じゅるっ♡ じゅるるっ♡ もみもみ♡ じゅる〜♡

美味そうにしゃぶりやがって。大人チンポハマられて余裕ぶつかまじてるのはいい度胸じゃねえか。俺のチンポ一本じゃ足りねえってか？

この強欲傲慢糞コキ雌が！

ドチユツ!!! ドチユツ!!!

「んっ!! むぶおっべん♡ んっべん♡ んっべん♡ んっべん♡」



やわトロ子宮に千本ノックキメ込んで脳みそまで精子漬けにしてやる！
「オラァっ!! ハメ蜜トロトロにさせて子宮ガン降り種付け準備万端で
膣内射精し待ち受けてんじゃねーぞッ!!

このッ!! ♡ イキ死ねッ!! ♡ イキ死ねッ!! ♡
ぶっびーッッッッッぶびびーッッッッッ

「おぶッッッ♡♡♡」

きゅんきゅんきゅんきゅんッ♡♡♡

アッッ!! ♡ 火照った体に濃厚ザーメン強力発射キクウッ! ♡

子宮イキで体の芯までチュンチュンにのぼせ上がってブツ倒れそ…♡

チンポに貴賤なし♡ でもやっぱり先生のチンポが二番だよ♡

愛されたすぎて降りきった子宮のお口に先っぽ捻じ込んでたーっぷりの

大好きオス汁♡ 注いでくれるもんねっ♡

「あッ♡ あんッ♡ ああああッ♡

クリにローター押し当てちゃだあ♡ またいつちやう♡

さつきからいきっぱなしでせつかくお風呂入ったのに

汗だくになつちやうよお♡ んあッ♡ あッ♡ ヤバッ♡

もう何されてもイク体になつちやつてる♡

「コラ、お前達！ おもちやはトランプ以外禁止だつて言われただろ！」

「すみませーんw 皆ユマと遊ぼうと思つて持つてきちやつたみたいです」

「まったく！ しょうがない奴らだな。」

おい、ユマ！ これは何だ？ どうつやつて使つんだ？ 言つてみるー！

「それは…っ♡ ご、極太バイブです♡ おマシコに挿れて使います♡」

「どうかッ!？」

ズブプッ♡ ザインザインザインザインザイン♡

「ううう ああああッ♡♡♡♡♡」

ビクビクビクッ♡



ビンツとおっ勃った俺のチンポにユマのマスコが覆い被さる。
トロトロにとろけた熱い膣内にぬるりと侵入する感覚で
俺もすぐにイきそうになっていた。

「んッ♡ ああ♡ はあッ♡ 奥まで当たって…♡

トントンコッコッ小突かれるッ♡ も…限界ッ♡

「ここに当たってんのかW おお? ここか?W」

バイブの先端を下腹に押し当てる。

グリッ♡ グリッ♡

「あ——ッッ!!!♡♡♡」

「オラァッ! ホンモノチンポで好きなだけイけよッ!」

ゴリュッゴリュッゴリュッゴリュッ!!!♡♡♡

ヴ
ヴ——ッ!!

「んんんんんんんんんん!!!♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

チンポとバイブの両攻めによる子宮アクメでユマは大きく仰け反り
盛大に潮を噴き上げた。



「おいおいどっすんだよ。派手にお漏らししやがって」

「ごめんなさあい♡でもユマ初めての潮吹きですっごく興奮しちやっただ♡

先生のザーメンたっぷり♡絞り取って膨れ上がったユマの赤ちゃん袋に震えるバイブグリグリ押しつけられたら体の奥からビンビン♡深イキ誘発させられてマンコ大暴走しちやっただ♡」

「楽しい修学旅行の思い出出来て良かったあ♪

ねっ、みんな♡」

「まったく…、お前はおマンコできりゃ何でもいいんだろ」

男子達も呆れ返っている。

こうして2泊3日の修学旅行は隙あらばセックスしたがるユマに付き合わされるおマンコ旅行となった。



修学旅行
楽しかったね♡

♡ 楽しかったね♡
♡ 修学旅行♡
♡ 楽しかったね♡

「ゼーンセ♡ 修学旅行楽しかったね♡

ユマ、これからも先生達といっぱいいーっばい♡

エッチしてあげるから、よろしくね♪♡

「何偉そうなこと言ってた。自分がやりたいだけの癖に。」

『おマン』とせて下さい『だろ?』

「はぁい、先生っ♡ おマン』とせて下さい!♡」

「それじゃあ今日はド」でする?」

まったく、相変わらずのクソビッチめ。

ユマのおかげで今後ちんこの乾く暇がなさそうだ。

END

Wow...
今日も
♡

修学旅行
楽